

参考様式1

農山漁村振興交付金(農山漁村活性化整備対策)事業実施計画

計画主体名	計画期間
にしあわくらそん 西粟倉村	令和3年度～令和6年度

<連絡先>

担当課	電話番号	FAX番号	メールアドレス
産業観光課	0868-79-2230	0868-79-2125	sankan@vill.nishiwakura.lg.jp

I 事業活用活性化計画目標

事業活用活性化計画目標	事業活用活性化計画目標の設定根拠
山村活性化の促進	<p>本村では、2008年度から百年の森林(もり)構想を掲げ林業から始まる地方創生に取り組んでいる。一方、農業は山間の狭小農地で農地面積は約145ha、水田面積約130haとなっており、米作中心の地域である。観光面では、関西方面と山陰を結ぶ交通要所となっており、平成25年3月に全線開通した鳥取自動車道の影響もあり、道の駅を中心とした通過観光事業はあるものの、滞在型観光のコンテンツ不足がかねてからの課題であった。</p> <p>このような状況の中、村内の事業者(㈱エーゼログループ(旧㈱西粟倉・森の学校):村のビジョンである「百年の森林構想」の一端を担う事業者)がいちごをキーコンテンツとした新規事業展開を計画した。当該事業を支援することで村に特産品と滞在型コンテンツを地域に実装することで、村の交流人口の増加を目指す。</p>

II 評価指標

第1評価指標(必須)	具体的数値目標	具体的数値目標の算出方法
交流人口の増加	11,310人/年	計画区域における交流人口の増加数11,310人=(計画区域外からの入込客数191,310人【目標値】-計画区域外からの入込客数180,000人【現状値】)
第1評価指標の設定根拠		
<p>村の観光事業の担い手である第三セクターあわくらグリーンリゾート管理施設(道の駅を含む)利用者数(H29~R1)の平均値に整備施設の利用者数(収穫体験及び併設カフェ等の3か年平均目標利用者数(R5:6,480人/年、R6:10,800人/年、R7:10,800人/年 Ave.9,360人/年)目標値とする。</p>		
第2評価指標(任意)	具体的数値目標	具体的数値目標の算出方法
第2評価指標の設定根拠		
第3評価指標(必須)	具体的数値目標	具体的数値目標の算出方法
生産するいちごを使った商品開発	3商品	農園で生産されたいちごを使った商品開発(カフェ・物販・道の駅での販売)R5~R7の期間に3件行う(㈱エーゼログループ(旧㈱森の学校)から
第3評価指標の設定根拠		
<p>体験農園等を運営する㈱エーゼログループ(旧㈱西粟倉・森の学校)が自社及び地域内の企業等と連携・販売するいちごを使った商品の開発実績件数(㈱エーゼログループからの報告)</p>		
評価期間(原則として3年間の効果発現状況を把握する期間)	評価報告予定年(評価期間の終了直後の9月末日まで)	
令和5年4月~令和8年3月	令和8年	

Ⅲ 活性化計画の目標及び事業活用活性化計画目標と交付対象事業の関連性

事業メニュー名	地区名	事業内容	事業規模等	実施期間	事業実施主体	全体事業費 (千円)	交付金要望額 (千円)	交付額 算定交付率	交付限度額 (千円)	活性化計画の目標及び 事業活用活性化計画目標との関連性	備考
②⑧農林漁業・農山 漁村体験施設	西粟倉地区	いちご収穫体験用 ハウス施設	いちご収穫体験用 ハウス A=1296㎡ 1棟	R3	株式会社 エーゼログループ	51,920	23,550	1/2	23,550	水稲以外に主たる農産品のない状況から、いちご収 穫体験農園を開設。いちご狩りによる一次産業観光 コンテンツを創出し、村の観光目的地化や他の観光 施設、ローカルベンチャーとの回遊を促し地域の交流 人口増加を図る	
②⑦地域連携販売 力強化施設	西粟倉地区	いちご栽培用ハウ ス施設	いちご栽培用ハウ ス A=2496㎡ 1棟	R4	株式会社 エーゼログループ	94,710	43,050	1/2	43,050	水稲以外に主たる農産品のない状況からいちご栽培 を開始、特産品化を目指す。 生産したいちごは、お土産等生食として販売する他、 ジェラート、お菓子に利用し、道の駅等でも販売し、誘 客コンテンツを開発する。	
②⑦地域連携販売 力強化施設	西粟倉地区	カフェ・物販・DIY コーナーの改築	カフェ・物販・コー ナーの改築 (A=200㎡)	R3	株式会社 エーゼログループ	36,993	16,500	1/2	16,500	いちご農園で生産されたいちごを利用したスイーツ等 を提供するカフェ、生産されたいちごや村内産品を販 売する売店を農園に隣接する工場の一部を改築して 設置。交流人口の増加に寄与する。	
合 計						183,623	83,100		83,100		

【記入要領】

- ・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。
- ・創意工夫発揮事業である場合は、事業内容欄に一体として行う事業メニュー名及び一体的に行う必要性を併せて記載すること。
- ・事業メニュー名欄には、実施要領の別表2の事業メニュー名を記入すること。
- ・地区名欄には、事業の実施地区名を記入すること。
- ・事業内容欄は、整備しようとする具体的な施設の内容を記載すること。
- ・事業規模等欄は、施設ごとの棟数と床面積、林道や森林管理道等の場合は地区名と延長など、それぞれの事業内容に応じた事業規模を記載すること。
- ・活性化計画の目標及び事業活用活性化計画目標との関連性欄は、これら目標を達成する上で、各々の事業の実施が必要な理由を記載すること。
- ・「農泊推進対策」で実施する場合には、備考の欄にどのように「農泊」と関連するかを明記すること。

(※)「農泊」とは、農山漁村において、日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ滞在(農山漁村滞在型旅行)をいう。

IV 他の施策との連携に関する事項

連携する施策名	事業メニュー名	地区名	連携する施策と交付対象事業の関連性等
該当なし			

【記入要領】

- ① 交付対象となる事業のうち、実施要領第6に掲げる施策と連携して実施する事業にあつては、連携施策名、連携施策の内容及び交付対象事業との関連性を記載すること。
- ② 連携する施策名には、実施要領第6に掲げる施策を記載すること。
- ③ 事業メニュー名欄には、実施要領の別表2の事業メニュー名を記載すること。
- ④ 地区名欄には、事業の実施地区名を記入すること。
- ⑤ 必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。

